



マエタのエコピーシーは秋田県リサイクル製品の認定商品です

エコピーシーって何？

■ 溶融スラグとは？

廃棄物やその焼却灰を 1200 度以上の高温で溶融し、水冷で砂状にしたものです。ガラス質の固化物で、循環型社会構築の中で安全でクリーンな建設材料として注目されています。



溶融スラグ利用コンクリートは、東北地方整備局のガイドラインや JIS A 5031 に準拠した品質を保証します。

■ 溶融スラグを利用したコンクリートの安全性は？

溶融スラグを利用したコンクリート製品を、当社ではエコピーシーと呼んでいます。

エコピーシーは材料の安全性だけでなく、コンクリートの各種強度や耐久性についても性能が保証されています!!

1. 重金属の溶出試験

溶融スラグに係わる目標基準

項目	溶出基準	試験結果の例
カドミウム	0.01 m g / ℓ 以下	< 0.001
鉛	0.01 m g / ℓ 以下	0.005
六価クロム	0.05 m g / ℓ 以下	< 0.01
砒素	0.01 m g / ℓ 以下	< 0.005
総水銀	0.0005 m g / ℓ 以下	< 0.0005
セレン	0.01 m g / ℓ 以下	< 0.002

2. 化学成分の分析試験

溶融スラグの化学成分の規定値

化学成分	規定値	引用規格	試験結果の例
酸化カルシウム (CaOとして)	45.0%以下	JIS A 5011-1	36.1
全硫黄 (Sとして)	2.0%以下	JIS A 5011-1	0.3
三酸化硫黄 (SO ₃ として)	0.5%以下	JIS A 5011-3	<0.1
金属鉄 (Feとして)	1.0%以下	JIS A 5011-2	0.2
塩化物 (NaClとして)	0.03%以下	JIS A 5011-3	0.0006
金属アルミニウムによる膨張率	2.0%以下	JSCE-F 522※	-1.6

※モルタルの膨張試験

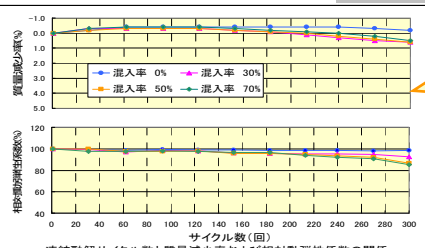
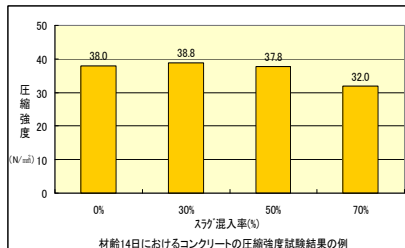
モルタルの配合は、水:セメント:細骨材=1:2:2.25 とする。

上記配合に、高性能減水剤を適宜添加しモルタルの流動性を図る。

3. 砕砂としての物理試験

溶融スラグ細骨材の試験項目及び規定値

項目	規定値	試験方法	試験結果の例
絶対密度	2.5 g / cm ³ 以上	JIS A 1109	2.89
吸水率	3.0% 以下	JIS A 1109	0.18
安定性	10% 以下	JIS A 1122	0.4
粒形判定実績率	53% 以上	JIS A 5005	54.7
微粒分量	7.0% 以下	JIS A 1103	3.4
有機不純物	標準色液より淡い	JIS A 1105	淡い
アルカリシリカ反応	無害	JIS A 1145(化学法) JIS A 1146(モルタル法) JIS A 1804(迅速法) のいずれかによる	無害



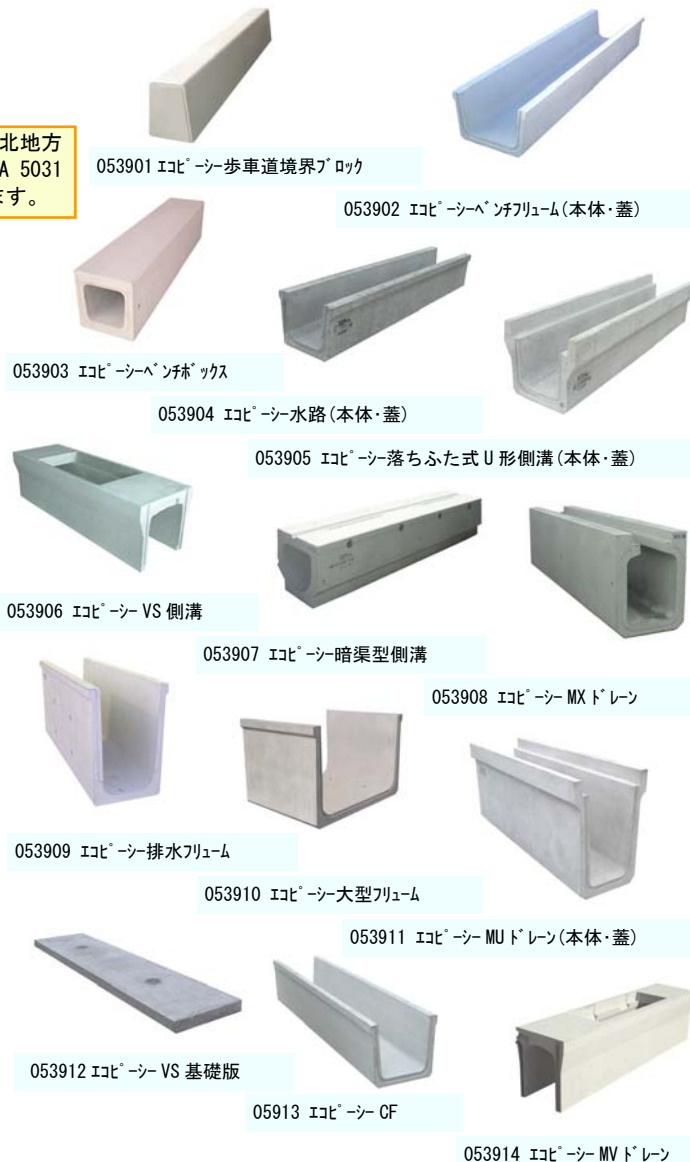
凍結融解試験でも通常のコンクリートと同等の耐久性を示しています。



溶融スラグ 30%

製品には、認定マークの他にリサイクル材料の材料名と混入率を示したリサイクルマークが表示されます。

エコピーシーの認定商品は 14 種類です。



エコピーシーは、秋田市総合環境センター溶融施設で生産される溶融スラグを使用しています。溶融スラグの混入率は、細骨材の質量比 30%です。

秋田支店：〒010-0944
横手駐在：〒013-0060
本社：〒998-8611
秋田工場：〒018-2401
東北支社製品事業部：〒980-0011

秋田県秋田市川尻若葉町1-33(マエタビル2F)
秋田県横手市条里3-8-15
山形県酒田市上本町6-7
秋田県山本郡三種町鶴川字八幡台124
宮城県仙台市青葉区上杉3-9-4マエタビル2F

TEL 018-865-3191
TEL 0182-32-9833
TEL 0234-23-5111
TEL 0185-85-2300
TEL 022-263-2620

FAX 018-862-6862
FAX 0182-33-4117
FAX 0234-24-7002
FAX 0185-85-2304
FAX 022-214-8071

支店: 青森/秋田/岩手/仙台/山形/酒田/福島/新潟/茨城/栃木/東京/千葉

工場: 十和田/青森/秋田/角館/水沢/雫石/山元/宮城/本社/天童/東根/米沢/郡山/宇都宮/栃木